

厚生連新潟医療センター 看護介護補助員 鈴木 和恵 様



皆さん、こんにちは。
本日は、「看護補助者として働いて思うこと」というテーマで私の経験と感じたことについてお話をさせていただきます。

Q1 この仕事を始める前の経緯やこの仕事に就いた動機について教えてください

- A1** この病院で看護補助者として、14年間勤務しております。
この仕事に就く前は、まったく医療とは関係のない職種に就いておりました。事務的な仕事で、人と深く関わることが少なく、どこか物足りなさを感じていました。
年齢を重ねるにつれて、「もっと人と関わりたい」「誰かの役に立つ仕事がしたい」という気持ちが強くなっていきました。
そんな思いから、前職を続けながらヘルパー2級（現在の介護職員初任者研修）の資格を修得しました。
学びを進める中で、誰かの生活に寄り添うこと、支えることの大切さを知り、「これが自分のやりたいことかもしれない」と感じるようになりました。
その流れで出会ったのが、看護補助者という仕事です。

Q2 以前とは違う職種に就くことに不安はありましたか

- A2** 病院での勤務を始めたばかりの頃は、正直とても不安でした。
医療の知識も専門用語も分からず、患者様にどう接したらよいかわからない。毎日手が探りで、緊張しながら一つひとつの業務を覚えていくのに必死でした。
それでも、少しずつ仕事に慣れ、患者様の名前や顔を覚え、声をかけてもらえるようになると、不安の中にもやりがいを感じ初めました。

Q3 主な仕事内容と、その中でご自身の役割をどのように捉えていらっしゃいますか

- A3** 看護補助者の主な仕事は、看護師の指示のもと、患者様の身の回りのお世話をすることです。
入浴・排泄・食事の介助、体位交換や環境整備、備品の補充、物品や書類を搬送するメッセンジャー業務などです。
直接医療行為を行うわけではありませんが、患者様の「生活」を支える、なくてはならない役割です。そして、看護師の方々が専門的なケアに集中できるようにサポートすることも、私たちの大切な役目だと感じています。

Q4 この仕事のやりがいについて教えてください

- A4** やはり患者様からの「ありがとう」の一言に尽きます。
顔を合わせるたびに少しずつ心を開いてくださったり、笑顔を見せてくださったりすることで、「自分の存在が役に立っている」と感じられます。



Q5 特に印象に残っている出来事があれば教えてください

A5 特に印象に残っているのは、入浴介助の場面での出来事です。ある高齢の男性患者様が、「今日はお風呂、やめておくよ」とおっしゃったことがありました。理由をうかがっても、「面倒くさいし、寒いし、いいよ」と気乗りしない様子でした。

私は無理強いせず、「少しだけでも温まると、身体が楽になりますよ」と声をかけながら、会話を続けました。最終的に「じゃあ、ちょっとだけな」と言ってくださり、一緒に入浴介助を行いました。

お風呂から出たあと、その方が「やっぱり入ってよかったなあ。気持ちよかった。ありがとうね」と言ってくださったのです。その言葉がとても嬉しくて、心があたたかくなったのを今でも覚えています。

この出来事を通して、入浴は身体の清潔を保つためだけでなく、患者様の気分や心にも良い影響を与えるのだと改めて感じました。小さな関わりの中でも、相手の気持ちを大切にしながら接することの大切さを学んだ出来事です。

Q6 この仕事における苦労や困難な点には、どのようなものがありますか

A6 身体介助は体力的に大変で、腰や膝に負担がかかることも多いです。感染対策への緊張も常にあります。また、認知症の方や精神的に不安定な患者様への対応では、時に理不尽な言葉を受けることもあります。

最初の頃は落ち込むことも多かったのですが、次第に「これは患者様が苦しい状況の中で一生懸命に表現していること」と受け止められるようになりました。

そのような経験を重ねる中で、少しずつですが自分の成長を感じています。

Q7 チーム医療における役割についてどのように考えていますか

A7 この仕事を通じて、私は「人に寄り添うことの力」や、「相手の立場に立つ大切さ」を学びました。そして、チーム医療の現場で、看護師や医師、リハビリスタッフ、栄養士、清掃スタッフなど多職種が協力し合う中で、自分の役割の重要性にも気づかされました。

一人ではできないことも、「チームで力を合わせれば可能になる」その実感があります。

Q8 今後の目標をお聞かせください

A8 今後も、私は患者様一人ひとりと丁寧に向き合い、安心して入院生活を送っていただけるよう努力していきたいと思っています。

看護補助者という仕事は、目立つ仕事ではありませんが、確かに「人と人をつなぐ」温かい仕事です。日々の関わりの中で、患者様が笑顔を取り戻していく姿や、「ありがとう」と言ってくださる瞬間に、私はこの仕事の意味を感じています。

Q9 これから看護補助者を目指す方々へのメッセージをお願いします

A9 最初は誰でも不安です。わたしもそうでした。でも、「誰かのためになりたい」という気持ちがあれば、少しずつできることが増えていきます。

わからないことは、まわりのスタッフがきっと教えてくれますし、あなたを支えてくれます。

この仕事は、患者様の体や心にそっと寄り添う、とてもあたたかい仕事です。完璧でなくても、大丈夫です。あなたにしかできない関わり方が、きっとあります。

ぜひ、勇気を出して一歩踏み出してみてください。現場で、皆さんに会える日を楽しみにしています。

